



# 東風

○月○日

『明るく伸びる子』

○考える子 ○助け合う子 ○やりぬく子  
○じょうぶな子

【重点目標】

認め合い 支え合い 高め合う 東小の子

令和3年7月26日発行 第5号

## 『お手伝いのススメ ～役に立つ喜びを～』

岩内東小学校長 齊 藤 信 之

74日間を駆け抜け、本日、1学期の終業式を迎えました。何をするにも感染症対策を最優先した制約の付きまとう毎日でありましたが、昨年度と異なるのは、学校を止めることなく子どもたちの活動を保障できたということです。何はともあれ、全ての子たちが健康に過ごすことができたことに安堵しています。ご家庭にもたくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

昨年度は全てが中止となった陸上や野球等の全道大会が、今年は開催されます。函館市で開催される全道陸上には、本校からも8名の子たちが出場します。野球少年団（東小・西小合同）も、後志大会での優勝を果たし、旭川市での全道大会出場が決まっています。活躍の場を与えられたことへの感謝の気持ちを忘れずに、高い目標へ果敢に挑戦する姿を見せてほしいと思います。

せっかくの夏休みですから、できるだけ有意義に過ごしてほしいと思うのは誰しも同じでしょう。そこで、お薦めしたいのが“お手伝い”です。お手伝いは、子どもを一気に成長させる絶好のツールです。お手伝いを成長につなげるためのポイントは、とてもシンプルです。「お手伝いをすると喜ばれる！」と実感する経験を一つでも多く積ませること、これが極めて大事です。子どもにとって、できたことが“認められる”ことは、とてもうれしいものです。大人にとっては簡単な作業でも、子どもにとっては大きなチャレンジです。お手伝いができたら、たっぷりとほめてあげてください。自分が責任をもって役割を果たすことで「すごいね」「ちゃんとできたね」とほめられることが、子どもの自信につながります。とにかく肯定的な言葉に浸らせてあげてください。ほめられた経験が多くなればなるほど「頼りにしてほしい！」という気持ちが子どもに芽生え、責任感や積極性も育まれていきます。

ほめるうえで意識してほしいポイントは3つです。①「助かったよ！本当にありがとう！」と、心から感謝の気持ちを伝えることが大切です。子どもは「こんなに喜んでもらえるなら、またお手伝いしたい」という気持ちになり、自主的に“ほめられる行動”をし始めます。②結果ではなく、過程をほめることを重視してください。昨日よりもできるようになったことをほめることが大切です。③ほめる言葉は、お手伝いが終わったらすぐにかけることが大切です。抱きしめながら、握手をしながら、最高の笑顔でほめてあげましょう。ほめられるたびに子どもは自信を深め、できることが増えていく喜びを感じます。

感染症や交通事故等に気を付け、安心・安全な夏休みを過ごす中で誰かの役に立つ喜びを知り、自信を増すことができる素敵な夏休みになることを願っています。